



炬火を掲げていざ謳う

No.10



我らの泉鳥取

2022年7月25日（月）

編集・発行 泉鳥取高校 教頭（妻木）

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>



国鉄 ⇒ JR西日本 本校最寄り駅

和泉鳥取駅 今昔

和泉鳥取駅は昭和38（1963）年に和泉砂川～山中溪の中間駅として開業しました。昭和5（1930）年、阪和電気鉄道（南海山手線）として開業したこの路線線には、和泉砂川駅（旧信達駅）に「泉南の砂川奇勝」という奇岩のならば奇勝があり、昭和10（1935）年には遊園地もオープンしましたが、戦争の足音とともに客足は落ち、阪和電気鉄道も昭和15（1940）年に国鉄に吸収され、戦争中には砂川遊園地も閉鎖されました。戦後はそのまま国鉄として、和歌山と大阪を結ぶ大動脈となりました。その中で駅は開業しました。

平成29（2017）年まで、改札は上り方面にあり、下りホームから改札を出ようとすると、細い通路で上り側に出なければならず、登校時は1,000人以上の生徒でごった返しました。また、終礼終了後、電車の接続が悪く、中には慌てて閉まるドアに駆け込んだり、すでにドアが閉まっている電車にあいている窓から乗ろうとして、電車を緊急停止させた不届き者もいました。校長、生指部長、保護者、本人が天王寺鉄道管理局（天鉄局）までお詫びに行ったものです。

昭和62（1987）年4月にJRが発足。その後平成4（1992）年にはみどりの窓口が設置され、便利な駅になっていきました。平成29年には東口が開業、上り下りの改札が分けられたため、若干乗降はスムーズになりました。また当初は普通電車しか停車しませんでした。現在では紀州路快速も一部停車しており、登下校には便利になっています。

開校当時、泉鳥取高校の近くには、食事をする店も、売店もほとんどありませんでした。コンビニエンスストアというものが日本でほとんど見られない頃です。駅前に西浦商店というパン屋がわずかにあるだけ、食事をするとっても、バス停前のオーシャンという喫茶店、唯一のうどん店（まるはち）といった、食事の困難校でした。

現在はコンビニ2軒、ラーメン店、イタリアンレストラン、魚割烹、スーパーなどもでき、ずいぶん便利になりました。

この絵は、大阪府八尾市在住の山元剛さんが写真を参考に描かれた色鉛筆画です。昭和51年、すなわち本校開校の頃の様子です。改札の改良は行われましたが、ホームの風景はほとんど変わっていません。



昭和51（1976）年当時、和泉鳥取駅の113系快速（山元 剛さん画）